

数学

I

■出題のねらい

数学 I，数学 II，数学 A，数学 B の内容から，指数と対数，式の計算と方程式，平面ベクトル，場合の数を選び，基本的な知識と計算力を問いました。

■採点講評

- (1) 空所 は，よくできていました。空所 では，2 とする誤答が散見されました。
- (2) 空所 は，よくできていましたが，空所 で -51 とする誤答がありました。問題文をよく読みましょう。
- (3) 空所 で $\frac{5}{12}$ とする誤答が散見されました。計算ミスと思われる誤答も多くありました。
- (4) よくできていました。番号のついた玉と間違えたと思われる解答が見受けられました。

II

■出題のねらい

数学 I，数学 II，数学 B の内容から，図形と式，円と直線，点と直線の距離，三角関数を選び，基本的な知識と計算力を問いました。

■採点講評

特に (2) のできがよくありませんでした。

- (1) 空所 ， については，式を整理していないものや 25 を引くことを忘れていたものがありました。空所 ， では，大小を間違えた誤答がありました。
- (2) 空所 ， については， π が抜けている誤答がありました。空所 は，よくできていました。

III

■出題のねらい

有理関数の微分および積分について、基本的な知識を問いました。

■採点講評

- (1) よくできていました。
- (2) よくできていましたが、 $f'(x)$ の極限を求める誤答がありました。
- (3) グラフについて、(2) の結果をうまく利用できていない解答がありました。
- (4) 不定積分の計算ミスや、 $f(x)$ を偶関数だと勘違いするミスが見受けられました。

IV

■出題のねらい

指数関数を含む関数の微分積分について問いました。

■採点講評

- (1) よくできていましたが、 e^{-2x} の微分を $-2xe^{-2x}$ とする誤答が見受けられました。
- (2) (1) を正答した人は、概ねよくできていました。 $e^{-2x} = 0$ から $x = 0$ とした誤答が少数ですがありました。
- (3) よくできていました。
- (4) $g(t)$ の式を正しく書けている人が少なかったです。少し複雑ですが落ち着いて考えましょう。

V

■出題のねらい

三角関数の3次関数について、基本的な知識と計算力を問いました。

■採点講評

- (1), (2) よくできていました。
- (3) 概ねできていましたが、三角関数の合成の計算が間違っている人が見受けられました。

VI

■出題のねらい

絶対値を含む2次関数について、基本計算、最小値、直線との交点、定積分を問いました。

■採点講評

- (1) よくできていました。
- (2) 多くの方が正答できていましたが、 x を残した式を解答しているものが複数ありました。問題文をよく読み、要求に対して正確に答えるようにしてください。
- (3) 多くの方が正答にたどりついていました。一方で、 $g'(1)=3$ から a 、 b の式を導出する際にミスをし、減点対象となった解答が散見されました。原始関数や積分について操作の意味を理解したうえで、十分な練習を積んでください。
- (4) 絶対値に関する場合分けによって、積分区間、符号、式変形などを正確に行うことが重要です。正答にたどりついた人は多くいましたが、計算ミス、転記ミスによって減点対象となった人も多かったです。落ち着いて導出し、確認を怠らないようにしましょう。

I

■出題のねらい

ばね・自由落下・衝突といったさまざまな力学の要素を問う問題です。衝突前後で各種条件が一変しますが、そこで混乱せずに、保存されるものは何かを適切に理解する必要があります。初期条件によってシナリオが変わる未来を予測する要素を取り入れました。

■採点講評

基本的な問題と発展問題を出題しました。問 1, 2, 空所 , , および問 3, 4, 5 は、基本的な問題のため、全体的によくできていました。ただ、座標軸の向き（符号のつけかた）の誤りが目立ちました。また、問 4 は、力学的エネルギー保存の法則の式を間違えて解答しているものが多く見受けられました。運動量保存則とエネルギー保存則は、一見似たような法則ですので、成り立つ条件などを整理しておいてください。

一方、発展的な問題については、あまり正答率は高くありませんでした。ただし、これらの問題は、決して難しい問題ではありません。空所 は、その直前の空所 , , を用いてエネルギー保存則から求められます。ただし、式のかたち自体はやや複雑なため、慎重に確認する必要があります。空所 は、考え方、解き方は空所 とほぼ同じですが、基準点とそれに対する向き（符号）を落ち着いて考えないと間違えてしまいます。空所 に空所 と同じ解答を書いた人が多かったですが不正答です。問 6 は、出題者の予想に反して高い正答率でした。問 7 は、方程式を立てるだけなので、少し変わった問題に感じたかもしれません。初速のある自由落下の運動の式と与えられた単振動の式をイコールでつなげる容易な問題でしたが、座標軸の向き（符号）の間違いが多く見受けられました。

II

■出題のねらい

金属の抵抗と抵抗率の関係式を手掛かりに、金属内で自由電子が電界（電場）から力を受けて運動し、電流となって流れる時の抵抗と抵抗率の関係の基本的な理解、また、ブリッジ回路内の抵抗として金属材料を使用した時の抵抗値と電流についての理解を問いました。

■採点講評

前半部分の自由電子の運動の空所[ア]～[カ]の問題は、空所[ア]の間違いが多かったため、続いて関係する問題の出来がよくありませんでした。全般的に後半部分の電気回路の空所[キ]～[ケ]の問題は、よくできていました。

空所[ア]の電場の強さでは、単位として[V/m]を与えています。その意味を考えて注意深く解答すれば空所[イ]、[ウ]は比較的容易に解答できます。自由電子の運動からオームの法則を導く空所[エ]～[カ]のうち、電流の大きさを求める空所[エ]の正答率は比較的高かったです。空所[ウ]が不正答だった者は、その影響で空所[オ]、[カ]を的確に解答することが難しかったようです。基本的な物理の概念をしっかりと身に付け、金属中の自由電子の運動と流れる電流の関係を具体的にイメージしながら論理的に思考することが肝要です。後半部分の電気回路の問題では、空所[ク]の R_x に流れる電流の正答率がよくありませんでした。ブリッジ回路において検流計の指示値が0になる条件を考えれば、並列回路として取り扱うことができます。電気回路の基本的な問題ですので、教科書で知識をしっかりと理解しておいてください。

III

■出題のねらい

熱力学に関する基本的項目（大気圧，状態方程式，仕事，熱力学の第一法則など）を正確に理解しているかを問いました。また，状態変化を直感的に理解しているかも試しました。

■採点講評

1)，2) は，状態方程式と圧力に関する基本的かつ頻出の問題です。2) と同様の問題は，過年度は正答率があまり高くありませんでしたが，2016年度入試では，ほとんどの受験者が正答していました。そのため，この辺りで間違えた受験者は全体的に得点が伸びませんでした。シリンダーを逆さまにして，同じ問題を問う8) も正答率が高かったです。

3) からは，定圧変化の問題です。名称の問題は，よくできていました。4)，5)，6) の問題は，状態方程式や熱力学の第1法則を用いた具体的な計算で，どの法則や公式を用いればよいかかわかれば容易に解くことができます。5) が難しかったようです。また，単原子分子理想気体では， $\frac{3}{2}$ となる値を a として一般的に扱ったので，これに惑わされた人もいました。勝手に $\frac{3}{2}$ を代入している受験者も見受けられました。

7) ～ 11) は，シリンダーを逆さまにする状態変化ですが，定性的な問題も出題しました。9) の三択問題は，正答率が高かったです。具体的な計算を問う10) は，正答率が約30%でした。基本的に5) と同じ問題ですが，問い方が変わるとわからなくなってしまう傾向がありました。11) は，きちんと計算すればピストンを大気圧で支えきれなくなることがわかります。しかし，直感的にピストンが止まらずに落ちていくことも理解してほしかったです。

12) は，理由も併せて問う三択問題です。三択問題の正答率は，約15%でした。定圧変化で与えた熱量が同じなら温度変化は等しくなりますが，気づかなかった人が多かったようです。理由を問う問題は，4)，5)，6) の計算を用いればすぐに解答できます。残念ながら正答率は，5%未満でした。

全体として基本的な問題ですが，予想よりも点数が伸びませんでした。状態変化は熱力学で重要な部分です。直感的な理解，論理的な思考と計算を身に付けて，基本事項からしっかりと学習するようにしてください。

I

■出題のねらい

不飽和炭化水素の名称，性質，反応などに関する基本的な知識を問いました。

■採点講評

全体的に，出来の良し悪しの差が非常に大きかったです。

(1) 不飽和炭化水素という解答が見受けられましたが，二重結合をもつアルケンも含まれますので解答として適切ではありません。(2) 炭素数2の炭化水素の名称です。基本問題ですので正確に覚えてください。(4) 分子の構造に関する問題です。メタン，エチレン，アセチレンなど単純な化合物の構造は整理して覚えてください。(5) 正答率が低い問題でした。酸化カルシウム (CaO) が生成する反応式を解答したものが多数見受けられましたが，水中で起こる反応ですので不適切です。少し難しいですが，正確に覚えてください。(6) ビニルアルコールからアセトアルデヒドへと異性化する化学反応を問う問題です。重要な化学的性質ですので，しっかりと理解しておいてください。(8) 未知の化合物を完全燃焼させた後，生成する二酸化炭素および水から炭化水素の分子式を導き出し，さらにその化合物に水素化させた水素の物質量を定量する問題です。元素分析に関連する基本的な問題でしたが，正答率は高くありませんでした。

II

■出題のねらい

熱化学方程式，ヘスの法則，結合エネルギー等の高校化学の基本的な内容です。入試問題の定番であり，本学の入試問題でも頻出です。

■採点講評

(1)，(2)の正答率は高かったです。(3)メタンの燃焼熱を求める問題は，ほとんどの人が正答していました。解答の中には，値を暗記していたため，正答できたと思われる解答もありましたが，暗記に頼る勉強だけでは，大学での学習に対応することが難しいです。(4)の問題は，CO₂発生量を抑制することの考えを問いました。(5)黒鉛と水蒸気から水素ガスと一酸化炭素が生じる熱化学方程式は，固体，液体，気体の状態を示す基本も忘れずに解答してください。(6)固体から気体への変化“昇華”は，漢字も含めて正しく理解してください。(7)ヨウ化水素の生成熱では，プラスマイナス逆の解答がいくつかありました。吸熱反応であることに注意して解答してください。(8)H-Iの結合エネルギーは，HI(気)からH(気)+I(気)，つまり原子になるための熱量を考慮して考える必要があります。(9)活性化状態を経由して化学反応は進行するので，出発物質の化学結合を切断するのに必要なエネルギーを必要としません。このことを決められた文字数で正確に記述できるようにしてください。ここで出てきた反応熱や結合エネルギーは，大学で学ぶ化学では，エンタルピーという新たな名前で化学反応の進む方向を決定する大事な指標となります。

III

■出題のねらい

原子の電子配置を題材に、化学に関する基本的な用語や知識が正しく理解できているかどうか問いました。

■採点講評

(1), (2) はよくできていました。原子番号20までの元素については、名称、元素記号および電子配置をしっかりと記憶し理解してください。なお、元素記号を斜体（斜めの文字）ではなく立体（真っ直ぐの文字）で書くように注意してください。また、金属元素と非金属元素の性質の違いについても理解してください。(3)~(5) は、比較的誤答が多かったです。電気陰性度、イオン化エネルギーおよび電子親和力の定義とそれぞれの違いについて十分に理解できていない受験者が見受けられました。(6) の過塩素酸の塩素の酸化数については、誤答が非常に多かった問題です。おそらく過塩素酸の化学式が書けなかったためではないかと思います。いろいろな化合物の名前と化学式を覚えるように心掛けてください。(7) の酸素の電子式の記述には誤答が多数見受けられました。共有電子対、非共有電子対、単結合あるいは二重結合についてそれぞれの違いを理解してください。(8) の記述問題は最も正答率が低かったです。ポイントは、原子番号が大きくなるに従い、陽子の数（正電荷）が増加し、電子が原子核に強く引きつけられる点です。このことを正確に記述できている解答は、非常に少なかったです。(9) のイオンの電子配置は、非常によくできていました。

本学の生物の入試問題は、教科書の内容を基本としており、教科書をしっかり勉強することが最大の入試対策です。教科書の図版の内容や「探究」といった項目も出題の対象になりますので、しっかり勉強してください。

B日程では、「呼吸」、「代謝」、「生態系」、「進化」、「バイオテクノロジー」、「免疫系」をテーマに出題しました。

I

■出題のねらい

(1) では、呼吸に関する反応系について問いました。細かい知識まで要求しましたが、入試ではよく出題される基本的な内容です。(2) では、生態系内における窒素とエネルギーの流れについて問いました。

■採点講評

正答率は、約40%でした。(1) は、空欄 ~ の穴埋め問題の正答率が低かったです。(1) の内容は、教科書レベルですが、呼吸における生化学反応について正確な理解が必要です。1) では、呼吸において電子がどのように運ばれるかがポイントとなりました。ここで重要になるのは、NADHとFADHです。これらが電子伝達系に電子を渡し、ATP合成に利用されます。やや高度な内容ですが、重要なプロセスのため、しっかり理解しておきましょう。解答では、NADPHと誤答しているものが多くありました。NADPHは、主に光合成で働く分子であり、NADHとは別のものです。2) では、空欄 , のクエン酸回路に関する問題の正答率が低かったです。注意すべきポイントは、教科書ではしばしばグルコース 1 分子が分解される際に発生するCO₂分子の数を書いているのに対し、この問題ではピルビン酸 1 分子の分解に伴って発生するCO₂分子の数を問うています。グルコース 1 分子からは、ピルビン酸が 2 分子発生します。ピルビン酸分解から発生するCO₂の数は、グルコースの半分になります。これを誤ったと思われる解答が多く見受けられました。

(2) は、生態系内の物質とエネルギーの流れに関する問題です。基本的な内容ですが、正答率は高くありませんでした。特に、4) の生態ピラミッドと生態系における物質の生産量、消費量に関する問題の正答率が低かったです。出題された図は、教科書でも見られる基本的な内容です。総生産量は、成長量、被食量、枯死量および呼吸量からなり、呼吸量を引いたものが純生産量となります。そのうち、被食量が一次消費者にお

ける摂食量に相当し、不消化排出量を引いたものが同化量になります。この各量の定義を知っていれば解答できる問題です。この問題に限らず、教科書の図を基にした問題は頻出です。図で用いられている用語の定義を正確に理解し、教科書とは違う形式で問われても正答できるようにしましょう。

II

■出題のねらい

(1) では、化学進化を中心に、生命の起源に関する基本知識を問いました。(2) は、遺伝子クローニングに関する実験考察問題です。やや高度な内容ですが、教科書の知識を基に考えることで正答できます。(3), (4) は、免疫に関する基本的な用語を問う問題とオクタロニー法における沈降線の解釈を問う実験考察問題です。後者の実験は、教科書に記載がありませんが、問題文中の指示に従って結果を解釈すれば正答できます。

■採点講評

正答率は、約56%でした。(1) の穴埋め問題は、全体的によくできていましたが、空欄[26]で化学進化を化学合成、自然発生としている解答が多く見受けられました。これらは、全く当てはまらない用語ではありませんが、“最も適当なものを選ぶ”という問題の主旨から外れているため、不正答になります。用語を選ぶ際は、選択肢全体を確認し、どれが最も当てはまる用語であるかを考えるようにしましょう。また、空欄[27]では「ミラー」を「ダーウィン」、「オパーリン」と混同している解答が多く見受けられました。彼らはすべて進化研究の歴史において重要な人物であり、入試問題でも頻出です。各々の業績を正確に把握しておきましょう。また、後半の細胞内共生に関する問題でも、ミトコンドリアと葉緑体を逆にしている解答が多かったです。

(2) の前半は、よくできていましたが、後半の実験4に関する問題(空欄[41]~[43])の正答率が低かったです。空欄[41]ですが、実験3でプラスミドZに遺伝子Yをつなぎ合わせた状態で実験4を行います。プラスミドB, Cのように塩基対数1000および200付近にバンドがみられるには、*Hind* IIIが作用する必要があります。ここで、*Bgl* IIと答えた解答が多く見受けられました。しかし、遺伝子YをプラスミドZにつなぎ合わせた時点で*Bgl* IIの切断面はなくなります。すなわち、*Bgl* IIが作用することはありません。次に空欄[42], [43]ですが、プラスミドZに遺伝子Yをつなぎ合わせた状態で*Hind* IIIが作用すると、遺伝子Yの入る方向により、遺伝子Y内の*Hind* IIIの切断部位とプラスミドZの*Hind* IIIの切断部位が近くなる場合と遠くなる場合の2通りが考えられます。このうち、近くなる場合に相当するのがプラスミドCです。この繋がり方

ではプラスミドZと遺伝子Yの転写方向が一致するので、遺伝子は発現する可能性があります。逆に、プラスミドBでは、プラスミドZと遺伝子Yの転写方向が逆になるので遺伝子は発現しないと考えられます。

(3)、(4)は、全体的によくできていました。空欄45で好中球をマクロファージと混同している解答が多く見受けられましたが、この2つは見た目も機能も異なる細胞です。教科書で確認しておきましょう。

I

■出題のねらい

日常的な会話の内容を正確に理解する問題です。二者のやりとりの流れを的確にとらえましょう。話題は「飼っている金魚の健康状態」です。金魚にBobという名前がついていることに気づけば、それほど難しくありません。

■採点講評

どの問題も正答率は比較的高く、2, 3を除いて70%以上でした。ただし、満点の人は約20%でした。2は、Tomoに対するAliceの心情を表現する最適な選択肢を選ぶ問題です。文法的に不適なものを選択した人が50%もいました。また3は、「今朝までBobの状態は変わりなかった」という本文の内容に基づいて選べば、選択肢②は排除できます。

II

■出題のねらい

モデルの仕事をしている20歳の女性に対するインタビュー記事を読み、ポイントとなる情報を的確に読み取る力を問う問題です。Q&A形式でまとめられているため、どこにどのような情報が記載されているか、見分けるのは比較的容易でした。どのような成り行きで彼女がこの業界に入ることになったのか。また、勧誘された際の彼女の反応や、今後の抱負について、正確に把握しましょう。

■採点講評

約70%の人が3問以上を正答しています。学業を続けることの重要性を女性が認識していたという本文の内容に基づけば、6は正答である選択肢③が容易に選べます。最も正答率の低かった8は、おそらく質問文と選択肢④の両方に否定語“not”が含まれていることで、混乱した人が多かったのでしょうか。落ち着いて情報を照合しましょう。

III

■出題のねらい

本文は、スマートフォンのアプリを利用してフリーマーケットで買い物をするという最近のトレンドについて紹介した英字新聞記事からの抜粋です。基本的な語彙力で読める文ですが、問われている部分の前後だけ読むのではなく、しっかり全体の文脈を捉えていないと正確に解答できない問題になっています。また、表中の英文は完全な文になっていませんが、表の項目の説明文ではよくみられるスタイルです。

■採点講評

全体的に正答率は低く、どの問題も50%前後でした。最も低いのは[13]でしたが、この問題のポイントは、「全体を示す名詞+such as+例になる名詞（の列挙）」という語順が理解できているかどうかです。本文の内容との異同を見分ける（4）は、選択肢②、⑥が正答です。⑤を選択した人が最も多く選択率は約50%でした。“at their own expense”「品物の送料は出品者が支払う」という最終段落の情報に気づくことが重要です。

IV

■出題のねらい

世界的に人気のけん玉に関する英文を読み、その背景や問題点、今後の課題について正確に読みとることができるかどうかを問うています。全体の意味を捉え、個々の問題で問われる情報を短い時間で正確に見つけ出す力も大切ですが、表面的な理解だけでは正答にたどりつけない問題も出題しています。難易度の高い単語の意味も、文脈をしっかりと読み込むことによって推測できるはずですが、論理的な考察力も重要なポイントです。

■採点講評

英文の内容を概ね理解できている人が多かったです。半数以上の受験者が50%以上の正答率でした。ただし、語彙力・文法力の差が明解に影響を与える問題もありました。例えば[16]の正答は選択肢④の“over”ですが、時間と関係する前置詞“at”を選択した人が40%もいました。また[18]で、選択肢③の“local”「各地域の」を和製英語の「ローカルな」という意味で理解している人は、正答の④“rural”を選べていませんでした。[24]の本文最終段落の専門家の意見の中にある“diversity”「多様性」という語を理解できていない人は、選択肢④を選ぶ傾向がありました。内容理解に基づく問題では、選択肢が日本語か英語かにかかわらず、比較的高い正答率となっています。特に[20]、[21]は70%以上でした。

V

■出題のねらい

実際の脳科学研究に基づいた英文で、人間の脳がコンピューターに比べ、省エネルギーなシステムを有していることが述べられています。単に機械的に語を並べ替えるのではなく、前後の文脈を理解して、的確な文をつくれるようにすることが大切です。

■採点講評

不可算名詞“energy”に付くのは選択肢①“much”のため、27は選択肢④“many”が不要です。29では選択肢④“applied to”の扱いに困った人が多かったようで、これを不要とした33%の人が不正答でした。

該当部分の正しい語の並び方は、次のようになります。

- 1) ①much ③energy ②did ⑤each of them
- 2) ⑤although ①we can ④suffer ②from
- 3) ③could ⑤be ④applied to ②various technologies

講評

I

出典 多田道太郎『しぐさの日本文化』、講談社、2014年

『しぐさの日本文化』に取られる「寝ころび」からの出題です。寝ころぶことが日本でどのように捉えられているかということ、地域的なことや歴史的なこととも関連させて述べています。古めかしい表現もありますが、決して難しい文章ではありません。

問1【漢字の書き取り問題】（解答番号①～⑦）

漢字の書き取りはわかりやすい字で書く必要があります。一面を大事に扱うようにしましょう。

問2【空欄補充】（解答番号⑧～⑩）

空欄Ⅰには評価と関連する③が正答です。空欄Ⅱの後文に「妙なことに感心してしまった」と記されることから、ここも評価に関連する言葉が入ります。正答は⑧です。空欄Ⅲの正答は⑤です。

問3【空欄補充 内容理解】（解答番号⑪）

「寝ころび」ことが無警戒、普通の人にはできないと本文に記されています。前文までを踏まえれば、正答は③です。

問4【空欄補充 内容理解】（解答番号⑫・⑬）

物ぐさ太郎は寝ているだけなので空欄Ⅴの正答は②です。空欄Ⅵの直後に対極的形態とあります。②の対極は⑦活躍です。①英雄も入る可能性がありますが、その後にある「形態」とはいえません。さらに、空欄の1行前に「物ぐさ太郎と西郷隆盛という二つの～」とあります。文の流れからすると空欄Ⅴには物ぐさ太郎に関する事、空欄Ⅵには西郷隆盛に関する言葉が入ります。

問5【空欄補充 内容理解】（解答番号⑭）

空欄甲を含む前後には、いわゆる本音と建前が書かれています。機械に合わせているという現実に対して空欄甲があるということです。正答は⑥です。正答率は36%でした。

問6【空欄補充 内容理解】（解答番号⑮）

後文がヒントです。動作に移りにくいということにつながる慣用句を選ぶと⑥が正答となります。

問7【傍線部の説明 文脈理解】（解答番号⑯）

「寝ころび」ことの評価をどうするかということです。冒頭3段落の内容を踏まえると正答は①です。

問8【傍線部の説明 文脈理解】（解答番号17）

正答は⑤です。①その効果を認識し、②熟知し、③寝ころびが警戒を示す姿勢～逆手にとって、④会談に有効であるという意外性、⑥小説は問題とは関係がない、以上の点が間違いです。正答率は44%でした。

問9【傍線部の理由説明 文脈把握】（解答番号18）

傍線部を一言加えて丁寧に見ると、本読む時に机に向かう必要があるのは錯覚であるということです。錯覚の理由として筆者は歴史的事実を引き合いに出している。この経緯を押さえれば正答は④です。正答率は49%でした。

問10【内容合致】（解答番号19）

正答は②・⑥です。①転換させている、③仏書は本文にない、④誰もが考えてこなかったことである、⑤寝ころぶことが人間にとって考える上での最も合理的な姿勢であること、⑦「かつて」が間違い（現代の話）、⑧来客者に対して気配りができることが人気の理由とは異なる、以上がそれぞれの選択肢の間違い個所です。

Ⅱ

出典 河合隼雄『これからの日本』、潮出版社、1999年

近代医学では病や老いに対応できなくなっているという現状の中で、新たな医療が求められているという内容の文章です。文章が長いため、近代医学、医療、宗教について筆者がどのように捉えているのかを把握しながら読み進めることが求められます。

問1【漢字問題】（解答番号20～27）

8問とも正答した受験者はいませんでした。正答を示しておきます。

a 駆除 b 確固 c 克服 d 精密 e たずさ f 尊重 g 威力 h 教義

問2【空欄補充 文脈把握】（解答番号は28・29）

空欄Ⅰは、近代医学と神や仏との関係が理解できていれば正答③が、空欄Ⅱは、医療についての筆者の考えが理解できていれば正答①が導き出せます。正答率はそれぞれ78%、89%でした。

問3【空欄補充・文脈把握】（解答番号は30～32）

空欄アの後に「この方法の確立」とあり、正答は⑤となります。空欄イには近代科学の特徴が入り、正答は②です。近代科学者が宗教を盲信・偽物と判断する根拠は「非科学的であるかどうか」なので、空欄ウの正答は④です。正答率はそれぞれ31%、40%、80%でした。

問4【空欄補充 文脈把握】（解答番号は33）

心と体の切断を前提とする医学によって心身症が増加しているという、この段落の内容から考えると、正答は③です。正答率は67%でした。

問5【傍線部の理由説明 内容把握】（解答番号は34）

正答は④です。①は明らかに誤りです。②は、「宗教」が正しいことが立証されるわけではないため誤りです。本来の宗教性から逸脱した方法をもって「癒し」を行おうとする危険性は「宗教」について述べられていることなので、③も誤りです。「宗教に対抗する」ことが目的ではないため、⑤は誤りです。正答率は58%でした。

問6【内容理解に関する問題】（解答番号は35）

「適当でないもの」が問われており、正答は③です。「宗教」によって「効果」が出たとしても、近代医学の手法がないがしろにされるとは書かれておらず、④の内容は誤りです。正答率は29%でした。

問7【内容理解に関する問題】（解答番号は36）

「適当でないもの」が問われており、正答は⑤です。「医療」においては観察者と現象との関係の存在を前提としなくてはならない、というのが筆者の主張であり、⑤の内容が本文と合致しません。正答率は49%でした。

問8【小見出し補充】（解答番号は37）

筆者がこの章で問題にしているのは、科学が切断した「関係」をいかにして回復するか、という問題であり、正答は②です。正答率は9%でした。

問9【内容合致】（解答番号は38）

正答は③・④です。①・②・⑥は明らかに誤りです。「効果」が発揮される宗教について筆者は「気をつけねばならない」と述べており、⑤も誤りです。⑦は近代医学が「無力になっている」の部分、⑧は「近代医学はいったん否定される必要がある」の部分が誤りです。正答率（完答）は24%でした。